

平城宮東方官衙地区の調査 平城第406次)

昨年の12月から今年の5月にかけて、平城宮の中
枢部にあたる東区朝堂院と東院地区にはさまれた東
方官衙地区の発掘調査をおこないました。

本調査地の周辺では、通称磚積官衙（遺構展示館）、
推定宮内省、造酒司などの役所の存在が明らかにな
っています。また、宮内省と磚積官衙の間には、平
城宮のなかでもとりわけ重要な基幹排水路であった
東大溝の存在も確認されています。今回は地下探査
もおこないつつ、幅6m、長さ100m内外の調査区
を縦横におよぼした試掘的な発掘調査です。

発掘調査の結果、東大溝の東側には、東西約50m
×南北約120m以上の役所の区画が存在し、少なく
とも2時期の変遷があることが分かりました。また、
この区画は東西築地によって仕切られていたよう
です。区画内の北半には、桁行2間以上、梁行1間
の掘立柱建物1棟、桁行2間以上、梁行2間の礎石
建物1棟が確認され、区画内の南半には、礎石建
ちの大型基壇建物を中心とし、その南に、桁行10
間以上の南北に長い基壇建物を対称に配置してい
たことがわかりました。

さらに、東大溝の西側、東区朝堂院との間では東
西に底を付けた桁行2間以上、梁行2間の大型基
壇建物が検出され、この地区にも役所が営まれて
いたことが確認できました。

あわせて、これら2つの役所の間を流れていた東
大溝は今回の調査地でも確認され、300点を超
える木簡が出土しています。

東方官衙地区はこれからも継続的に発掘調査を
おこなっていきます。今後の調査の進展にどうぞ
ご期待ください。 (都城発掘調査部 栗野 隆)



調査区全景 南東から)